

# 平成26年度 北九州市高齢者支援と介護の質の向上推進会議

## 会議録(認知症対策・権利擁護に関する会議)

### 1 開催日時

平成26年11月20日(木) 18:30~20:00

### 2 開催場所

北九州市役所 3階 大集会室

### 3 出席者等

#### (1) 構成員

井田構成員(代表)、猪熊構成員、小鉢構成員、清水構成員、田代構成員、福嶋構成員、増本構成員

#### (2) 事務局

計画調整担当課長、認知症対策室長 他

### 4 会議内容

#### (1) 次期高齢者支援計画の試案について

### 5 会議経過及び発言内容

#### (1) 次期高齢者支援計画の試案について

【資料「(仮称)第四次北九州市高齢者支援計画【試案第2稿】】

構成員：今後3年間で、地域の皆さんを巻き込んで地域包括ケアシステムの構築を進めていかないといけない。63ページの進捗状況の評価については、市民の皆様も含めて評価していくというのは非常に重要であると感じており、計画に掲載したことを評価する。

構成員：計画周知のための「出前講座」は、どの規模でやるつもりなのか。

計画調整担当課長：具体的な規模は今から検討することとしているが、各区で1回とかではなく、できる限りきめ細やかにやるつもりである。

構成員：計画については、これからの社会保障の話で非常に重要である。自治会、まちづくり協議会など地域組織の中では、トップの方にしかこうした話は伝わっておらず、大多数の方には伝わっていない。そうした方達にもきちんと説明をして理解してもらう必要がある。

構成員：本計画の中では、行政として覚悟を持ってリーダーシップを取りながら取組みを進めていくという考えを示しているが、その一方で「地域主義」の考えの根底に、市民の自主的な活動を強力に支援していくという意気込みも感じた。

また、市民一人一人が、認知症のことを自分や家族の切実な問題として捉え始めている。

計画調整担当課長：地域主義といっても、地域にすべてお任せするというのではなく、それぞれの地域の中でしっかりと行政がリーダーシップを発揮して、みなさんと一緒になってシステムを作り上げていこうと考えている。

構成員：62ページの事業者の役割とあるが、この事業者は「オレンジ会議」に出席した方々を指

し示しているのか。

計画調整担当課長：企業の方をイメージしている。ワークライフバランスや男女共同参画の推進の考えを取り入れた取組みに努めて欲しいとの思いから記載した。

構成員：介護事業者には地域活動を求められているが、実際に地域で活動しようとする、地域からは個別の事業者を特別扱いすることになるので、拒否されることがある。

そういったことから、計画の中の事業者に介護事業者も入れていただくと、活動がしやすくなると思う。

計画調整担当課長：介護事業者は（3）保健・医療・福祉関係者に入っているが、区分分けについては検討する。

構成員：例えば大牟田市では、介護事業者から市に呼びかけて、認知症に関するいろんな取組みが進んでいる。そうしたことから事業所の果たす役割は大きい。

構成員：町の規模からして大牟田市とは一概に比べることはできないが、北九州市としては、（3）と（4）の役割のところで、ありとあらゆる立場の人が認知症対策に取り組み、行政としてはそこに積極的に関わり協力していくということで、理想的な体制を構築するということが良いのではないか。

構成員：地域の役割とあるが、地域で中心となるべき市民センターに情報が来ていないこともあり、現実には難しい。今、市民センターには認知症の人を守るという観点はないので、もっと市民センターに積極的に役割を果たして欲しい。また、事業所も利用しない手はない。地域包括になるのかもしれないが、コーディネートする人が必要である。

計画調整担当課長：役割のところだが、試案で示している5つの区分については、これから地域包括ケアシステムを作り上げるために、地域の実情に合った形になるよう、進めていく中で、それぞれの役割もはっきりしていくものだと思っている。

構成員：提案だが、役割というと、役割のところにも名前のあがっている人達、市民にしても当事者だけがやればよいのではないかと、限定的になってしまう印象がある。役割の前に、市民みんなが自分と自分の家族の問題として、取り組もうということがあって、そのあとに役割があれば、市民全員の問題という前提になってよいのではないか。

構成員：「認知症疾患医療センター」を4箇所設置とあるが、市民の利便性に配慮して設置場所を検討して欲しい。

それと「認知症カフェ」について、今後どのように増やしていくか、市民センターにおくのか、介護事業所に委託するかなど、今後の方向性について教えて欲しい。

認知症対策室長：「認知症疾患医療センター」については、地域バランスを考えて設置していきたいと考えている。

「認知症カフェ」については、まずは介護事業所や病院などから始めていって、徐々に広げていくということを想定している。

構成員：居場所づくり事業としてサロンというのが市内に社協関係で200箇所、その他自前で100箇所以上あるだろうと思う。それ以外にも自覚せずにやっているところも結構な数あると思う。サロンと認知症カフェの違いはなにか。専門職を置かないといけないのか。危険をなくすためにはどうしないといけないのか等、カフェの設置に当たっては考えないといけないことが多い。基準なども含め皆でよく検討して最低ラインのようなものを作る必要があるのではないか。

認知症対策室長：認知症カフェの定義や広め方については、いろんな方々の意見を聴きながらやっていきたい。

構成員：今すでにあるデイサービス等にあるカフェ的なものと、行政がやろうとしているものには違いがあるのか。

認知症対策室長：民間がやることについて、お金を出すかは別にして、補助的なことをしたいと考えている。デイサービス等との違いは、参加するもしないも本人の自由という、自由度の違いではないかと考えている。

構成員：自由に集えるというが、ボランティアな体制での、サービスの提供や、どこまで安全を確保できるのか、何か起こった時の責任や苦情などについて十分に討議されていない。

構成員：家族の会では家族の交流会を開催しているが、認知症カフェもほぼ同義で、今までの介護サービス（デイサービスやデイケア）ではフォローできない隙間を埋めていこうということだと思う。問題が起きたらということはそれは自己責任じゃないかなと思う。

構成員：単に過ごす場所だけでなく、そこにいけば何か情報を得ることができるとか、くつろぐことができるとか、そういう気楽な場所だったら良いのではないか。

構成員：交流会に参加している人の経過などを把握していけば、カフェの特性なども分かってくるのではないか。

構成員：軽度、中度の方が参加できる中間施設的なイメージではないだろうか。目標に7区に設置とあるが、実際運営していく中での問題点を皆さんの知恵をお借りして一つ一つ解決していくことで、カフェの形が見えてくるのではないだろうか。まずはやることに意義があると思う。

構成員：認知症サポーターの養成とあるが、受講した人に渡すオレンジリングは、実際に身に付けて欲しい。認知症の啓発がこれがきっかけで広がっていくと思う。

構成員：認知症サポーターステップアップ研修というのがあるが、この内容としては、認知症サポーターメールをはじめとして、認知症サポーターとしてできることについて等がある。北九州市独自の取組みでもあるので、認知症サポーター養成講座を受けた人にこれを受講してもらうなどして開催への取組みを充実させてほしい。

認知症対策室長：認知症サポーターメールについては1300~1400人くらい登録してもらっている。認知症啓発のために、まずは認知症サポーター養成講座の受講を推進することは当然だが、次のステップに進むことも非常に重要であると考えているので、ステップアップ研修もしっかり取り組んでいきたい。

## (2) その他

- ・ 次回は北九州市オレンジ会議として1月に開催する予定。
- ・ 北九州市版オレンジプランのパブリックコメントは次期高齢者支援計画として行う。